

ものみやぐら JR土山駅南広場に「物見櫓」が完成

古代から輝く未来へ 悠久の時を奏でます

▶問い合わせ 土木課 ☎0794(35)2365



▲夜にはライトアップされます

建設費は「ふるさと創生1億円」を活用
昭和63年に、国は「地方が自ら考え、自ら行う地域づくり」を支援する事業として、全国の市町村に対して一律に「ふるさと創生1億円」を交付しました。その後引き続き、交付税により市町村に配分され、本町においてはこれらの配分されたお金を、町の活性化やシンボルとなるような事業に使いたいと考え、「地域活性化基金」として積み立ててきました。これまでに、この基金から平成元年・6年・7年の3回にわたり各自治会の活性化を図るための活動補助金として、また「播磨町夏まつり」、「花火大会」や「健康フェア」などの、住民参加型の事業を行うための費用に充ててきました。

そして、このたびの町のシンボルとなるモニュメント「古代の物見櫓をイメージ



▲町の玄関に、町のシンボル「大中遺跡」をデザイン

町のシンボルとして

住民の皆さんの長年の願いであった「JR土山駅」の自由通路と橋上駅舎が、平成15年12月に完成し、駅南側からもJRに乗りこえるようになりました。そして、翌年7月に駅南側の広場を整備し、名実ともに、播磨町の北の玄関口として完成したことを記念し、町のシンボルとして、古代の物見櫓をイメージさせる時計台を設置しました。

住民の誇り「大中遺跡」

このモニュメント設置にあたっては、平成10年の駅南広場整備計画に併せて検討していましたが、同年に全世帯を対象としたアンケートの中で、町の自慢・誇りはとの問いで、第1位に「大中遺跡」が挙げられたことなどを考慮して、国指定史跡である大中遺跡を町内外にアピールできるものと計画しました。

また、JR土山駅の橋上駅舎の屋根は古代住居をイメージしており、駅南広場の車止めも「勾玉」を連想させたデザインで、夜間には足下を照らすようにしています。歩道部分のブロックにも土器や古代住居の絵柄にして、土山駅周辺全体を「大中遺跡」をイメージして整備を行っています。

大中遺跡から土山駅へ

大中遺跡から土山駅には、四季折々の草花を楽しみながら散策できる緑道「であいのみち」が、すでに整備されています。大中遺跡で「古代」を、「であいのみち」で「現在」を、「土山駅」で「未来」を感じるといイメージで策定した、第3次播磨町総合計画のまちづくりの目標である「古代から輝く未来へ！みんなでつくるまち はりま」を体现できるかもしれません。

維持管理費を安価にするための工夫

「シッサーの時計台」の製作には、今後の維持管理費を安価にするために、当初の製作費として7千350万円かかっていますが、このうち国からの補助金が2千400万円（補助対象事業費の1/3）あり、残りの4千950万円については、住民の皆さんから直接納めていただいた町税を使うのではなく、積み立てていた「地域活性化基金」を充てて整備しています。

モニュメントの概要についてですが、高さ7・35m、柱間隔3mで、屋根は茅葺き風に仕上げられています。人形は、軽量でメンテナンスも比較的容易なFRP製で弥生時代の生活を表現しており、朝7時から夜9時までの1時間（ここ30分間、人形が回転するようにしています。また、朝7時、正午、夜7時の3回については、人形が弥生時代を彷彿させるような素朴で自然さを感じさせる環境音的な曲調とともに回転します。時計は、駅舎側、であいのみち側と南側の3面についています。照明は、日没タイマー制御で動作し、夜7時の人形の動きに合わせて明るさが増してゆくようにしています。

特に、屋根や梁、時計の文字盤の素材には、美観性・耐久性のほか耐塩害で耐酸性に富み、しかもメンテナンス（維持管理）に優れているアルミキャスト（鋳物）を採用しています。

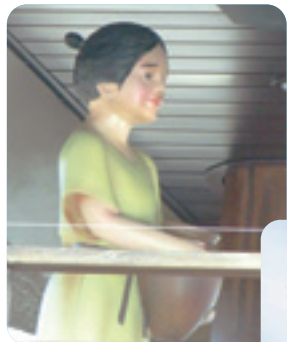
古代に物見櫓があったの？

物見櫓は、弥生時代中期から後期（今から2千年から千800年前）に、村の中でも見晴らしの良いところに造られ、人々の幸せを害するものが入って来るのを、いち早くみつげる役割りをした建物です。

駅前の広場に造られることで、播磨町が全国に誇る弥生時代の遺跡、国指定史跡「大中遺跡」を全国の人々に知っていただくとともに、播磨町の住民だけでなく、道行く人々の幸せを見守りながら時を刻むことを願って造りました。



▲古代の村の復元住居



▲毎時0分には弥生人の家族がゆっくり回ります



そして、考古博物館へ

本町では住民の皆さんに参画いただき、大中遺跡周辺を歴史学習・文化活動・レクリエーションの拠点として、より具体化するために「はりま文化ゾーン総合整備基本計画」を策定しています。この、拠点となる施設「県立考古博物館（仮称）」が県において建設され、平成19年秋には大中遺跡の隣接地にオープンすることになっていきます。

また現在、大中遺跡は復元住居が2棟しかありませんが8棟程度に増やし、もっと県民の方々に親しんでもらえるように、県において大中遺跡の再整備を図ることとしています。

このことから、今後においては県内外から多くの方が本町を訪れることが予想され、北の玄関口ともいえるJR土山駅周辺の整備を行っています。